

開発の中ではよく、新技術・大弾を求めるがおいそれと出てくるものではない。またあまりにも鵜呑みにしていると、現実からの遠さから挫折に到る経緯が多いと思われる。

世の中の成功者と言われている例を、大リーガー・イチローについて触れたい。

何といっても記録づくめの偉大な選手だ。日本での選手時代には7年連続首位打者などの数々の記録を打ち立て、本場アメリカに渡り初年度から200本以上安打し、新人賞を獲得。2004年には、大リーグでも84年間破られなかった年間最多安打の記録を打ち立てた。

彼の野球への姿勢に関してはよく語られるが、その中でも有名なことは、練習量の多さだ。最多安打数記録達成の際の関係者へのインタビューでも実に多くの人が述べていた「普段の彼を見ていると、それだけのことをやっているからこそだと思う」と。

安打数記録を達成した時のインタビューに、そんな彼らしいコメントがあった。記者に、以前、「この記録はとんでもないところにあるものだ」と言っていたがと問われて、彼はこう答えた。「いま思うことは、**小さなことを重ねることが、とんでもないところへいくただ一つの道だ**と感じている」

**高い技術は、身に付けた技術と場数がものをいう。**技術の習得というのは全てそうで、努力のわりには上達しない時期がしばらく続き、あるとき一気に上達する。そしてそのレベルに達すれば、一度身に付けた技術レベルはおいそれとは下がらない。しかし**多く人は努力のわりには成果が上がらないと感じる時期にやめてしまう。そこでやめてしまうから、その上の世界が見えないのだ。**

とにかく現在の世の中の考えとして、効率が美徳であるという世界に慣れてしまっているがゆえなのか、根気よく努力しない。小さなことを重ねない。すぐに結果を求める。しかし、それこそが現在の私たちに欠けている力、今の時代に生きる私たちに必要な力、**「積み重ねる力」**では。

いろいろやっているわりには成果に結びついていなかったり、自分が目標にするところまでたどりつけていないと感じているかもしれない。しかし、そこまでたどりつけている人たちが最初からそうだったかという、そうではないのだ。

ひとえに、技術は努力のたまものだし、場数も文字どおりものをいう。そのためにもっとも重要なことは、途中でやめてしまわないことなのだ。だからこそ、「積み重ねる力」に直結するものがある。それはその仕事への「覚悟」と、その仕事が「どれだけ好きか」ということだ。

私たちはどうしても楽をしてゴールへ行きたがる。やめてしまうときには、「才能」という言い訳を使いたくなる。そんなときはこれからもあるだろうけれど、そのときはイチローの言葉を思い出してほしい。

「**小さなことを重ねることが、とんでもないところへいくただ一つの道**」だと。